

○鳴海多恵子*・川端博子**・福井真希子*・日景弥生*³

(*東京学芸大, **都立短大, *³弘前大)

(目的) 物を作る・直すなどの作業およびそれらに対する意識と手指の微細運動能力との関係について、作業経験に関する調査により明らかにするとともに、被服製作実習の学習効果から実証的に追求した。

(方法) 女子学生約120名に対し、糸結びテストによる手指の微細運動能力の実態調査および質問紙調査(被服に関する作業経験、調理に関する作業経験および工作や補修に関する作業経験の計21項目と物を作る・直すことに対する積極性や価値観など23項目)を同時に行った。また、被服製作実習の学習効果については授業履修者22名を調査対照群、非履修者22名を比較群として、10ヶ月間に8回の糸結びテストと3種の質問紙調査を行い、比較検討した。

(結果) 被服に関わる作業経験は、「袋類の製作」・「ボタン付け」や「裾上げ」は60～80%の人が、何度かした、よくしたと回答していたが、「シャツ・ブラウス」、「スカート」などの衣類の製作は、多くのものが学校の授業での製作経験のみであることがうかがえた。しかし、被服に関わる作業、工作や補修関係の作業経験の多い人は、糸結び数が多く、作業経験と微細運動能力との関係が示唆された。また、物を作る・直すことに対する意識についての結果から、それらに対して積極的態度を持ち、高い価値観を持つ人が微細運動能力に優れていることが確認できた。調査対照群と比較群の糸結び数の比較から、被服製作実習の効果が実証された。長期休暇後に両群間に糸結び数の大きな差がみられたが、この間の作業経験が、対照群においてより多かったことから継続的な作業経験が手指の微細運動能力を維持向上させるものと考えられた。